平成 25 年 3 月 29 日

岡山県感染症週報 2013 年 第 12 週（3 月 18 日～3 月 24 日）

◎岡山県は『インフルエンザ警報』を解除し、
『インフルエンザ注意報』に切り替えました。（3 月 28 日）

◆2013 年　第 12 週（3/18 ～ 3/24）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 11 週　2 類感染症　結核　2 名（50 代　男、80 代　男）
第 12 週　2 類感染症　結核　1 名（20 代　男）
　　4 類感染症　A 型肝炎　1 名（80 代　男）
　　5 類感染症　風しん　1 名（60 代　女）

■定点把握感染症の発生状況

○インフルエンザは、県全体で 741 名（定点あたり 9.11 → 8.82 人）の報告があり、第 6 週以降減少がつづいています。
○感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数でした（定点あたり 9.65 → 9.56 人）。

【第 13 週　速報】
○腸管出血性大腸菌感染症　1 名（O146：50 代　女）の発生がありました。（3 月 25 日）

---

1. **インフルエンザ**は、県全体で 741 名（定点あたり 8.82 人）の報告があり、前週（9.11 人）より減少しました。患者減少がつづいていることから、岡山県は平成 25 年 2 月 7 日に発令した「インフルエンザ警報」解除し「インフルエンザ注意報」に切り替えることとしました。なお、流行のピークは過ぎたものの、しばらくはインフルエンザの流行がつづくと思われますので、ひきつづき、手洗い・うがいなど感染予防に努めてください。
県内の詳しい発生状況などは『**インフルエンザ情報**』をご覧ください。
全国の第 11 週（3/11～3/17）の集計によると、定点あたり 8.13 人であり、前週（10.37 人）よりも減少しました。第 5 週以降減少がつづいており、45 都道府県で前週の報告数より減少しました。2 月以降検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型が最も多く検出されている一方で、B 型の検出割合が徐々に増加しています。

2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同様でした（定点あたり 9.65 → 9.56 人）。0～2 歳の乳幼児が患者全体の 37% 占めています。県内の発生状況など詳しくは『**感染性胃腸炎情報**』をご覧ください。

3. **風しん**は 1 名の発生がありました。岡山県では 2013 年第 1～12 週までに 11 名が報告されており、2008 年に風しんが全数把握感染症になって以降、2008 年の 13 名に次いで患者報告が多くなっています。
第 12 週に発生した患者は 60 代　女性で、予防接種歴無しでした。岡山県では、昨年 1 年間の風しん患者数は 6 名でしたが、今年に入り患者報告がつづいています。第 3 週以降は第 6 週を除き毎週患者が報告されており、今後の増加が懸念されます。
今年、全国では東京都など関東地方を中心に昨年を上まわる大きな流行になっており、第 8～10 週は 1 週間の患者報告数が 300 人を越えるなど、増加がつづいています。第 11 週までにすでに 2,021 人が報告され、大流行となった昨年 1 年間の患者数 2,353 人にせまる患者数となっています。
春休みのこの時期は、旅行や進学・就職などで人の移動も多くなります。関東地方・近畿地方など、風しんの流行地域に出掛け、その後全身性の発疹、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性もありますので早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	→	★★★	RSウイルス感染症	→	★
咽頭結膜熱	↘	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★
感染性胃腸炎	→	★★★	水痘	→	★
手足口病	↓	★	伝染性紅斑	→	★
突発性発疹	↗	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	↑	★	流行性耳下腺炎	↘	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↓	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↓	★	クラミジア肺炎	↓	

【記号の説明】 前週からの推移: ↗ :2 倍以上の減少　↘ :1.1～2 倍未満の減少　→ :1.1 未満の増減
↓ :1.1～2 倍未満の増加　↑ : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし　★: 僅か　★★:少し　★★★:やや多い　★★★★:多い　★★★★★:非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

平成 25 年 3 月 29 日

インフルエンザ情報　2013 年　第 12 週　（3 月 18 日 ～ 3 月 24 日）

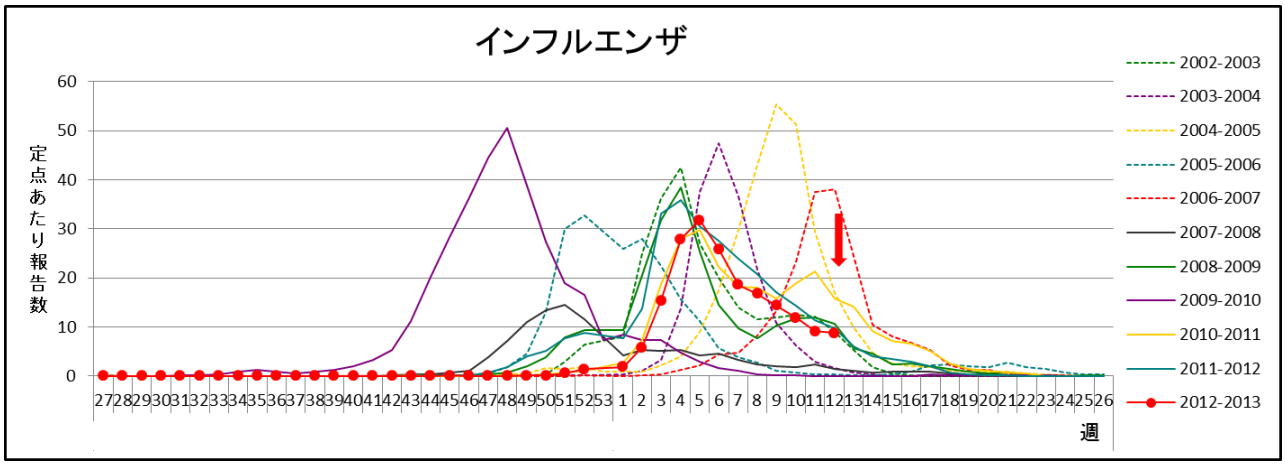
岡山県は『インフルエンザ警報』を解除し、
『インフルエンザ注意報』に切り替えました。（3 月 28 日）

➢ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、県全体で 741 名（定点あたり 9.11 → 8.82 人）の報告があり、第 5 週をピークに減少がつづいています。
岡山県は『インフルエンザ警報』を『注意報』に切り替えました。

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 8 施設でありました。

○インフルエンザによる入院患者 1 名の報告がありました。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ～ 今年 26 週を　1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 741 名（定点あたり 9.11 → 8.82 人）の報告があり（84 定点医療機関報告）、前週より減少しました。県全体の定点あたり患者数が 2 週連続して 10 人を下まわり、患者減少がつづいていることから、岡山県は平成 25 年 2 月 7 日に発令した「インフルエンザ警報」を解除し、「インフルエンザ注意報」に切り替えることとしました。

患者は減少傾向にありますが、備中地域（10.42 人）では発生レベル 3 が継続し、倉敷市（12.81 人）、美作地域（12.10 人）では再びレベル 2 になるなど、患者が増加している地域もあります。注意報に切り替わったものの、今後も県内の流行はしばらくつづくと思われます。手洗い・うがいなどの感染予防を心がけ、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。また一度インフルエンザにかかっても、型の異なるインフルエンザウイルスに再び感染することがあります。全国では、2 月以降 B 型の検出割合が徐々に増加していると報告されていますので、ひきつづき注意が必要です。

※警報の解除基準：2 週連続して、定点あたり 10 人を下まわった場合。

◆　インフルエンザは依然として流行期にあります。ひきつづき感染予防に努めて下さい。

【 インフルエンザにかかったら 】

○家に帰ったら、手洗い・うがいをしましょう。

○人混みに入る時は、マスクを着用しましょう。

○十分な睡眠、バランスの良い食事などに気を付けて、抵抗力をつけましょう。

【 かかったかな？という時は 】

○早めに医療機関を受診し、確実に治療しましょう。

○できるだけ昼間に受診し、必ずマスクを着用して受診しましょう。

○周りの人にうつさないように「咳エチケット」を心がけましょう。

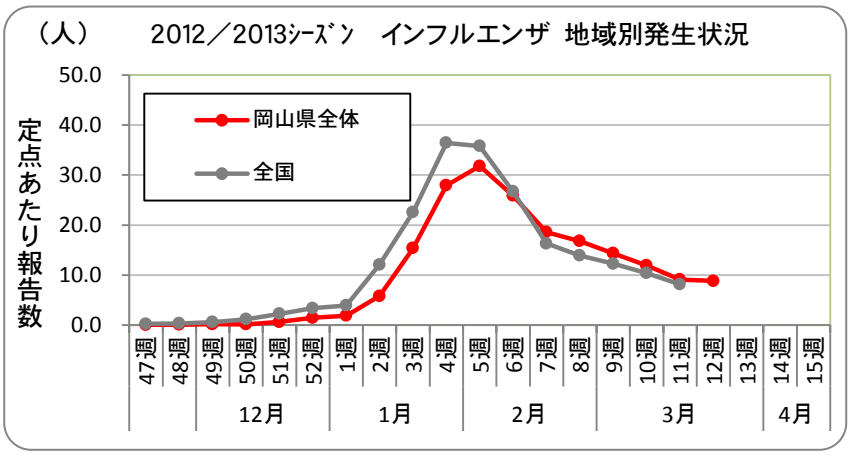
1.　地域別発生状況

第 12 週（3/18～3/24）　前週からの推移（単位：人）

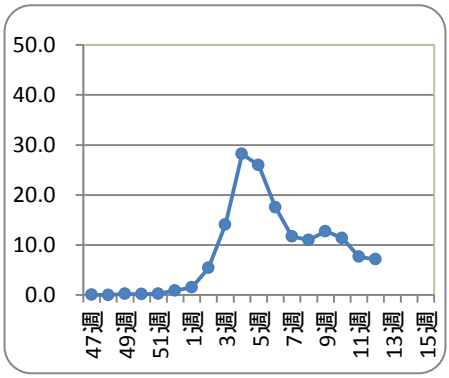
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	**患 者 数**	**741**	→	備　中	患 者 数	125	↘
	定点あたり	**8.82**			定点あたり	10.42	
岡山市	患 者 数	157	→	備　北	患 者 数	48	↘
	定点あたり	7.14			定点あたり	8.00	
倉敷市	患 者 数	205	↗	真　庭	患 者 数	28	↗
	定点あたり	12.81			定点あたり	9.33	
備　前	患 者 数	57	↘	美　作	患 者 数	121	↗
	定点あたり	3.80			定点あたり	12.10	

【記号の説明】　前週からの推移：　2 倍以上の減少 ↓　1.1～2 倍未満の減少 ↘　1.1 未満の増減 →

1.1～2 倍未満の増加 ↗　2 倍以上の増加 ↑

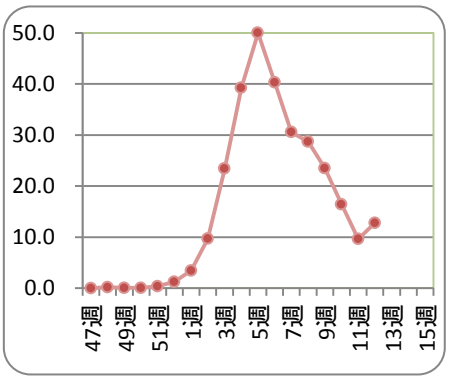


岡山市

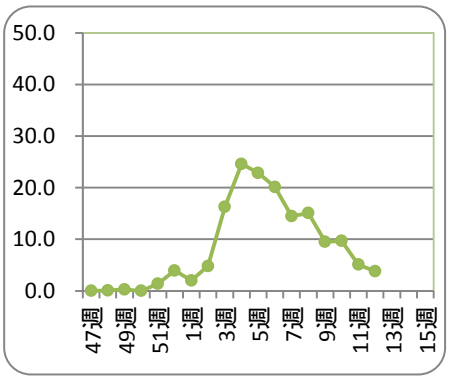


全国集計第 11 週(3/11～3/17)の定点あたり患者数は 8.13 人となり、前週(10.37 人)よりも減少しました。第 5 週以降減少がつづいており、45 都道府県で前週の報告数より減少しました。インフルエンザウイルス AH3 型の割合が最も多く検出されている一方で、B 型の検出割合が増加してきています。

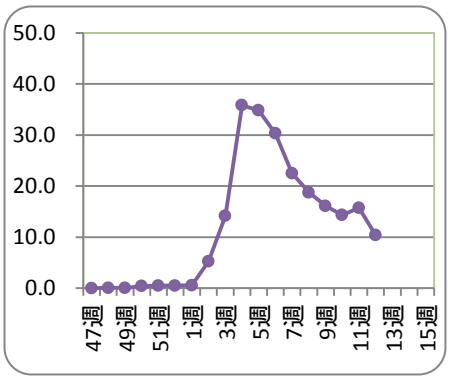
倉敷市



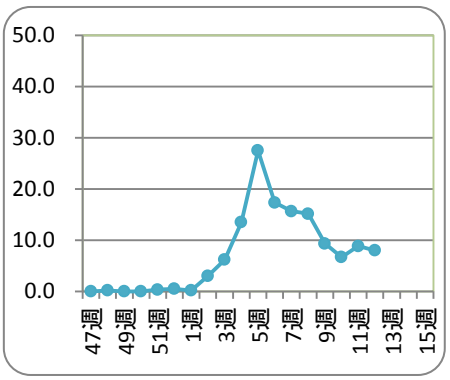
備前地域



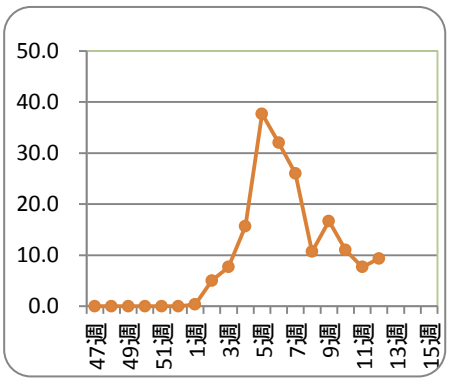
備中地域



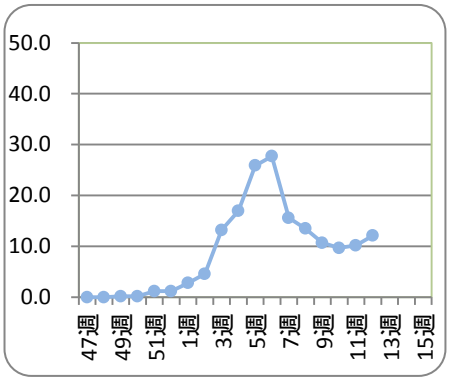
備北地域



真庭地域

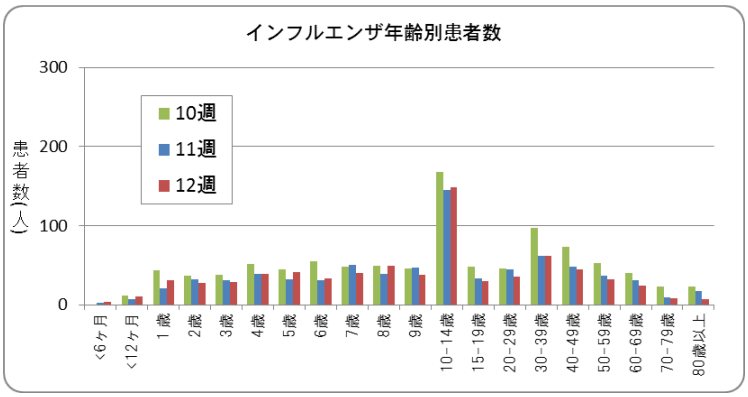


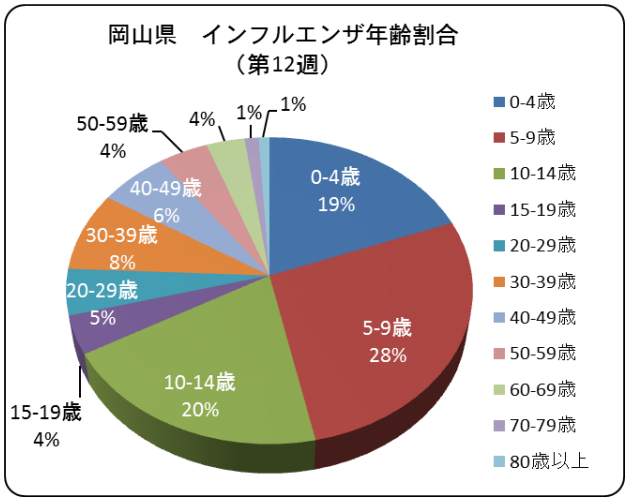
美作地域

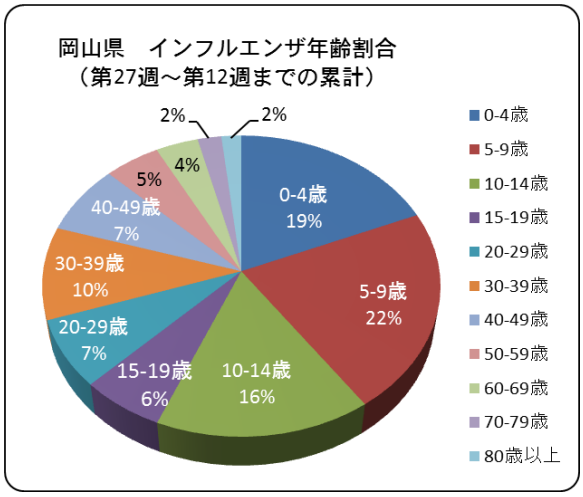


2. 年齢別発生状況　　第 12 週（3/18～3/24）

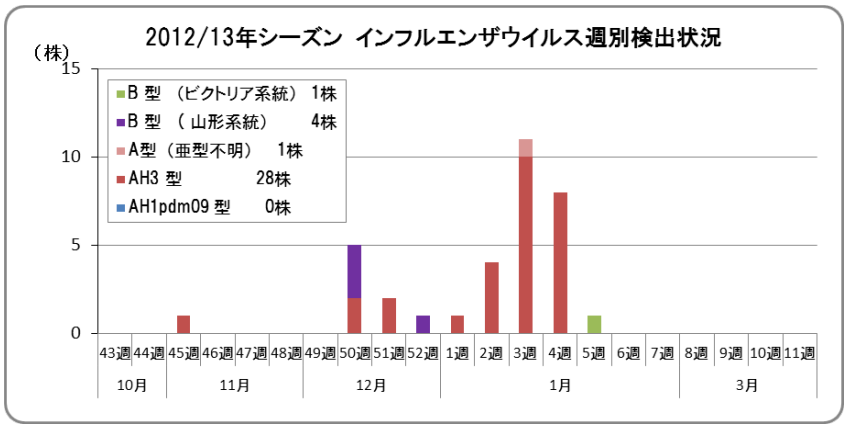
第 12 週の患者の年齢割合は 5－9 歳が 28%、10－14 歳が 20%、0－4 歳が 19% の順で、幼児・小学生・中学生に該当する年齢層が患者の 67%を占め、成人の患者割合は減少しています。現在多くの学校で春休みに入っているため、学校等の集団の中での感染の機会は減ると思われますが、春休みで人の移動も多くなることから、ひきつづき外出後の手洗い・うがいなどの感染予防に努めてください。







3. インフルエンザウイルス検出状況　　第 12 週（3/18～3/24）



第 12 週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。

これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 28 株、A 型（亜型不明）が 1 株、B 型（山形系統）が 4 株、B 型（ビクトリア系統）が 1 株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が最も多く 86%、B 型が 14%、AH1pdm09 型が 2% の順になっています。昨シーズン同様 AH3 型が主流になっていますが、B 型の検出割合が徐々に増加しています。

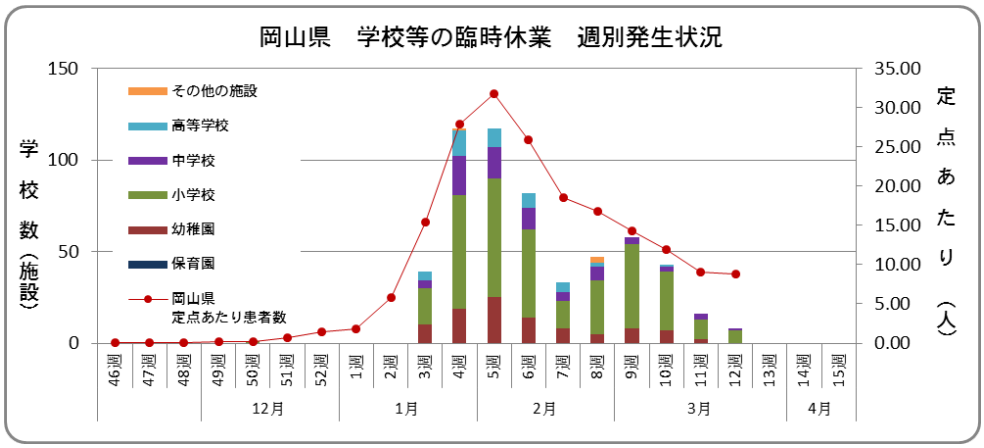
（インフルエンザウイルス分離・検出速報　国立感染症情報センター）

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数　第 12 週（3/18～3/24）

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 8 施設でありました。

◆第 12 週　臨時休業施設数

▽岡山市 1　▽倉敷市 3　▽笠岡市 1　▽真庭市 1　▽津山市 1　▽美咲町 1



1）有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳　　第 12 週

地域名＊	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	**今週**	累計	**今週**	累計	**今週**	累計	**今週**	累計	**今週**	累計	
岡山県全体	**139**	7792	**95**	5747	**8**	562	**1**	22	**4**	182	**3**	358	**H 24. 11. 6**
岡山市	**25**	2906	**14**	2103	**1**	184	**0**	2	**1**	30	**0**	152	H24. 11. 6
倉敷市	**40**	1791	**35**	1288	**3**	109	**0**	1	**0**	15	**3**	93	H25. 1. 15
備前地域	**0**	875	**0**	664	**0**	80	**0**	4	**0**	36	**0**	40	H25. 1. 15
備中地域	**11**	1109	**11**	895	**1**	92	**0**	6	**1**	42	**0**	44	H24. 12. 12
備北地域	**0**	301	**0**	231	**0**	31	**0**	3	**0**	23	**0**	5	H25. 1. 21
真庭地域	**5**	128	**5**	90	**1**	12	**0**	1	**1**	9	**0**	2	H25. 1. 21
美作地域	**58**	682	**30**	476	**2**	54	**1**	5	**1**	27	**0**	22	H25. 1. 15

＊地域名は、保健所管轄地域を表しています

2）臨時休業施設数の内訳　　第 12 週：8 施設　　累計：562 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	**今週**	累計	**今週**	累計	**今週**	累計	**今週**	累計	**今週**	累計
施設数	－	－	**0**	98	**7**	336	**1**	78	**0**	46	**0**	4

◆　インフルエンザによる出席停止期間が改正されました。

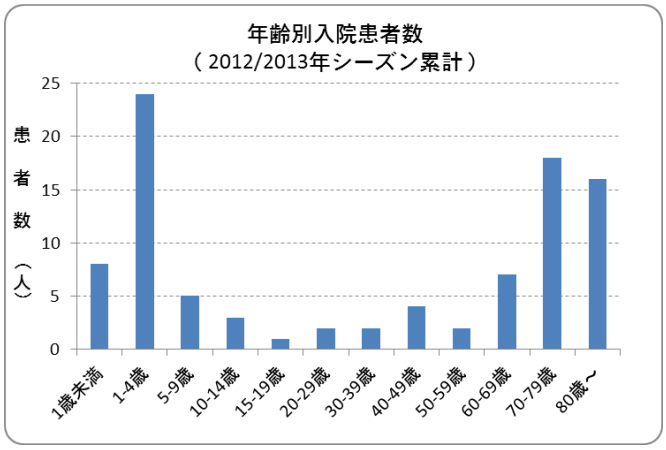
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあっては、3 日）を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

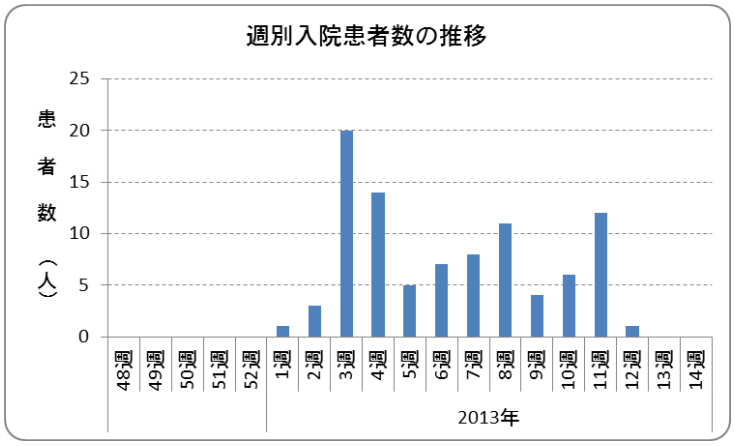
※　学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）

5. インフルエンザによる入院患者報告数　第 12 週（3/18～3/24）　（ 県内基幹定点　5 医療機関による報告 ）

インフルエンザによる入院患者は 10 代　1 名の報告がありました。10 歳未満の幼児や 70 歳以上の高齢者で入院患者が多くみられます。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。





【第 12 週　入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数				1									1
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査（予定含）													
頭部 MRI 検査（予定含）													
脳波検査（予定含）													
いずれにも該当せず				1									1

＊重複あり

【平成 24 年 9 月 3 日以降に入院した患者の累計数】

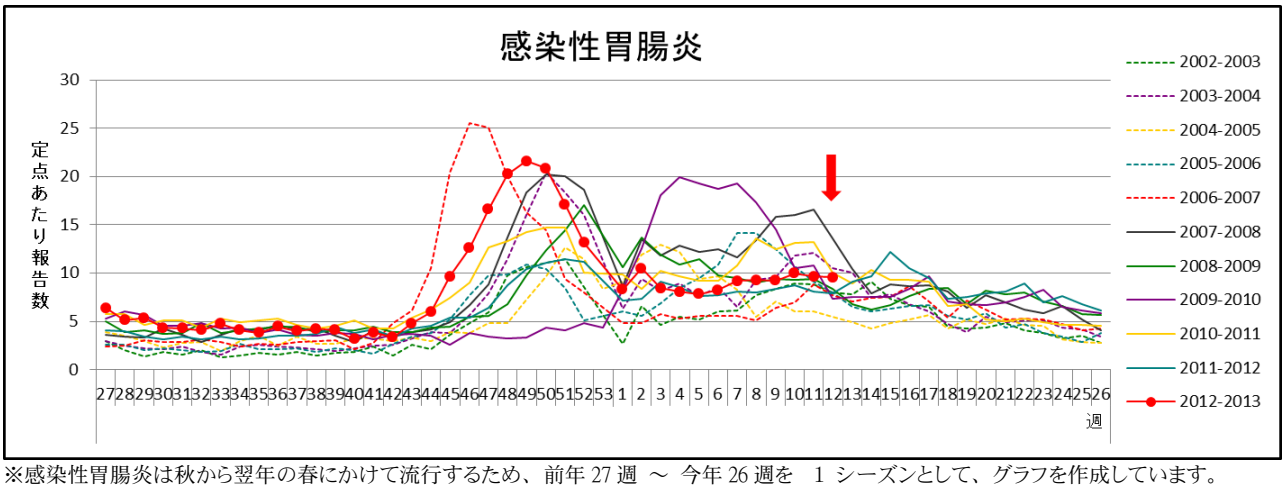
年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数	**8**	**24**	**5**	**3**	**1**	**2**	**2**	**4**	**2**	**7**	**18**	**16**	**92**
ICU 入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部 CT 検査（予定含）		3	2	1	1	1	1				2		11
頭部 MRI 検査（予定含）		8	1		1		1						11
脳波検査（予定含）		1					1						2
いずれにも該当せず	8	15	2	2		1	1	4	2	6	16	16	73

＊重複あり

平成 25 年 3 月 29 日

感染性胃腸炎情報　2013 年　第 12 週　（3 月 18 日 ～ 3 月 24 日）

○岡山県内の患者報告数は 516 名（定点あたり 9.56 人）であり、前週とほぼ同数でした。（54 定点医療機関報告）

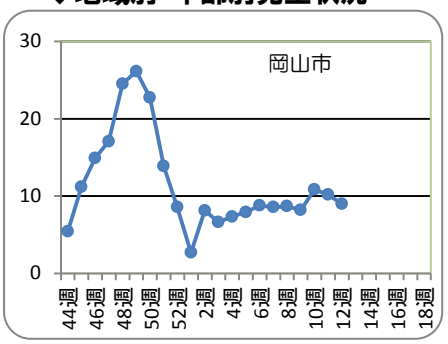


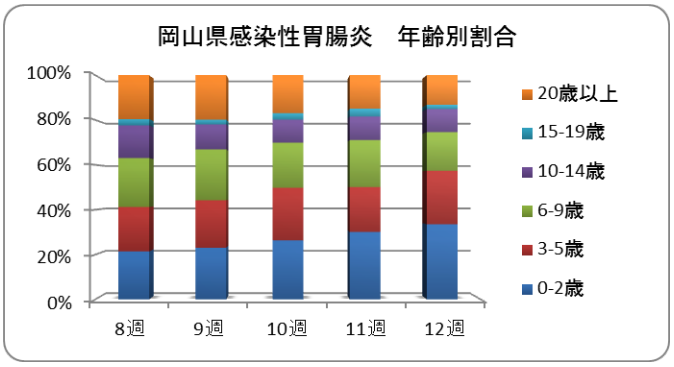
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ～ 今年 26 週を　1 シーズンとして、グラフを作成しています。

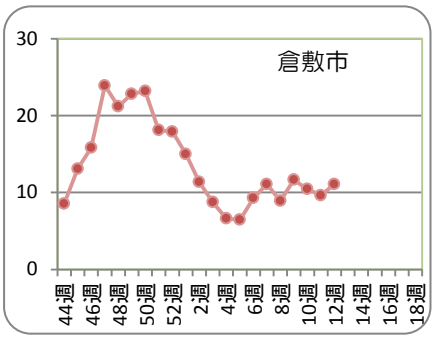
感染性胃腸炎は、前週とほぼ同数で（定点あたり 9.65 → 9.56 人）、第 3 週以降横ばいで推移しています。地域別では、備前地域（12.90 人）、倉敷市（11.09 人）、美作市（10.50 人）で患者が多くなっています。年齢別では、0～2 歳が全体の 34%を占めており、この年齢層の割合が徐々に増加しています。

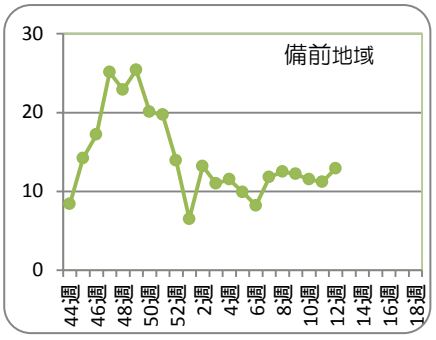
患者数の大きな増加はありませんが、依然として流行期にあります。手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理など感染予防と拡大防止に努めてください。また、例年 3～5 月にかけては、ロタウイルスによる胃腸炎が 0～2 歳の乳幼児を中心に増加するとされています。県内ではすでに 1 月、2 月に発生した胃腸炎患者から、ロタウイルスの検出が確認されています。主な症状は嘔吐と下痢で、ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれています。小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢により脱水症を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

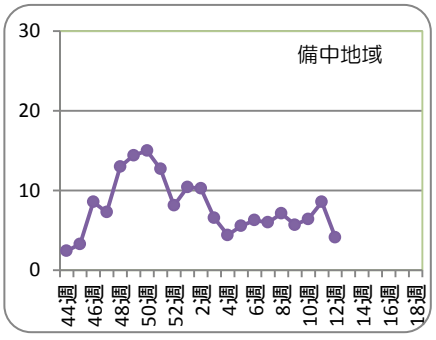
◆地域別・年齢別発生状況

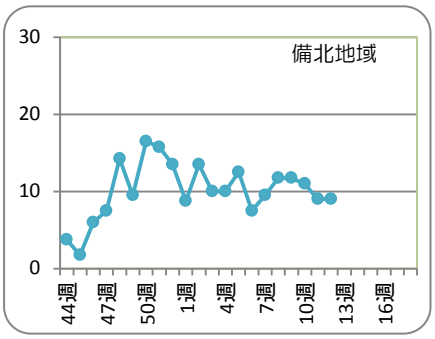


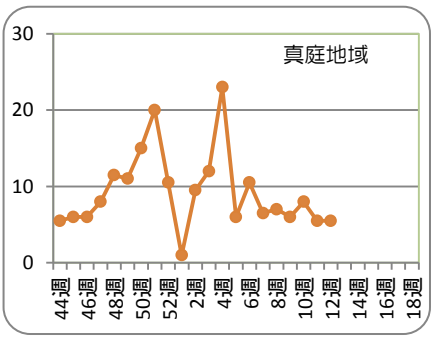


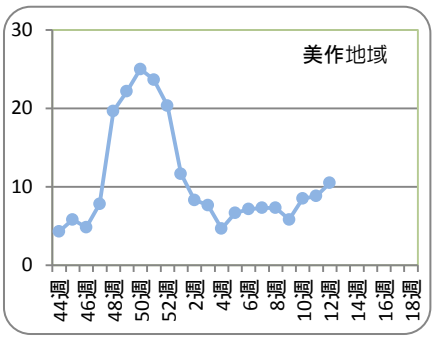












保健所別報告患者数 2013年 12週 （2013/03/18～2013/03/24）

2013年3月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	741	8.82	157	7.14	205	12.81	57	3.80	125	10.42	48	8.00	28	9.33	121	12.10
RSウイルス感染症	10	0.19	5	0.36	2	0.18	1	0.10	2	0.29	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	5	0.09	3	0.21	1	0.09	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	0.67	18	1.29	3	0.27	2	0.20	5	0.71	1	0.25	–	–	7	1.17
感染性胃腸炎	516	9.56	126	9.00	122	11.09	129	12.90	29	4.14	36	9.00	11	5.50	63	10.50
水痘	52	0.96	19	1.36	18	1.64	5	0.50	2	0.29	–	–	1	0.50	7	1.17
手足口病	2	0.04	1	0.07	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
伝染性紅斑	2	0.04	–	–	1	0.09	1	0.10	–	–	–	–	–	–	–	–
突発性発疹	17	0.31	8	0.57	5	0.45	2	0.20	–	–	–	–	–	–	2	0.33
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	2	0.04	2	0.14	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	6	0.11	2	0.14	1	0.09	1	0.10	–	–	1	0.25	1	0.50	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	–	–	–	–	–	–					–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	–	–	1	1.00					–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–

（－： 0 or 0.00） （空白 ： 定点なし）

保健所別報告患者数 2013年 12週 （2013/03/18～2013/03/24）

2013年3月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	741	8.82	157	7.14	205	12.81	57	3.80	125	10.42	48	8.00	28	9.33	121	12.10
咽頭結膜熱	5	0.09	3	0.21	1	0.09	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	0.67	18	1.29	3	0.27	2	0.20	5	0.71	1	0.25	–	–	7	1.17
感染性胃腸炎	516	9.56	126	9.00	122	11.09	129	12.90	29	4.14	36	9.00	11	5.50	63	10.50
水痘	52	0.96	19	1.36	18	1.64	5	0.50	2	0.29	–	–	1	0.50	7	1.17
手足口病	2	0.04	1	0.07	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
伝染性紅斑	2	0.04	–	–	1	0.09	1	0.10	–	–	–	–	–	–	–	–
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	2	0.04	2	0.14	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	6	0.11	2	0.14	1	0.09	1	0.10	–	–	1	0.25	1	0.50	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	–	–	–	–	–	–					–	–

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル３
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２　　を示しています。

（－： 0 or 0.00）　（空白 ： 定点なし）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2013年　第12週　 2013/03/18～2013/03/24 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	741	4	11	31	28	29	39	42	34	40	50	38	149	30	36	62	45	32	25	9	7

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	10	2	1	6	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	5	–	–	2	–	1	1	1	–	–	–	–	–	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	36	–	–	4	1	3	4	5	5	5	3	2	1	–	3
感染性胃腸炎	516	5	27	81	60	44	43	36	35	18	16	20	53	10	68
水痘	52	–	7	8	6	2	8	6	5	1	4	2	3	–	–
手足口病	2	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	2	–	–	–	–	–	–	–	1	1	–	–	–	–	–
突発性発疹	17	–	6	11	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	2	–	–	–	–	1	–	–	1	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	6	–	–	–	–	3	1	1	–	–	–	–	1	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–

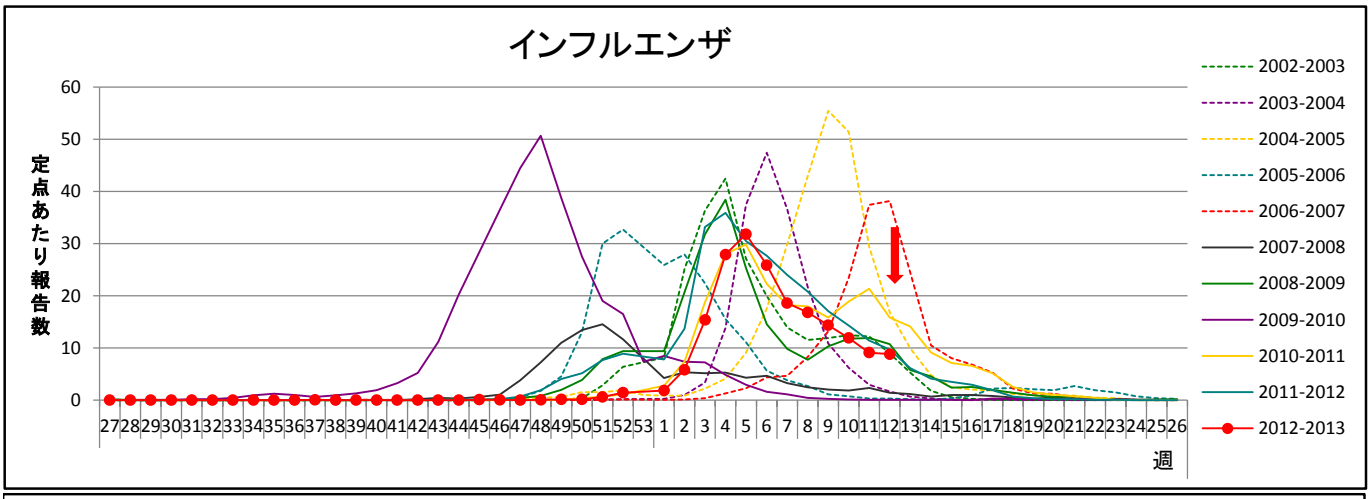
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

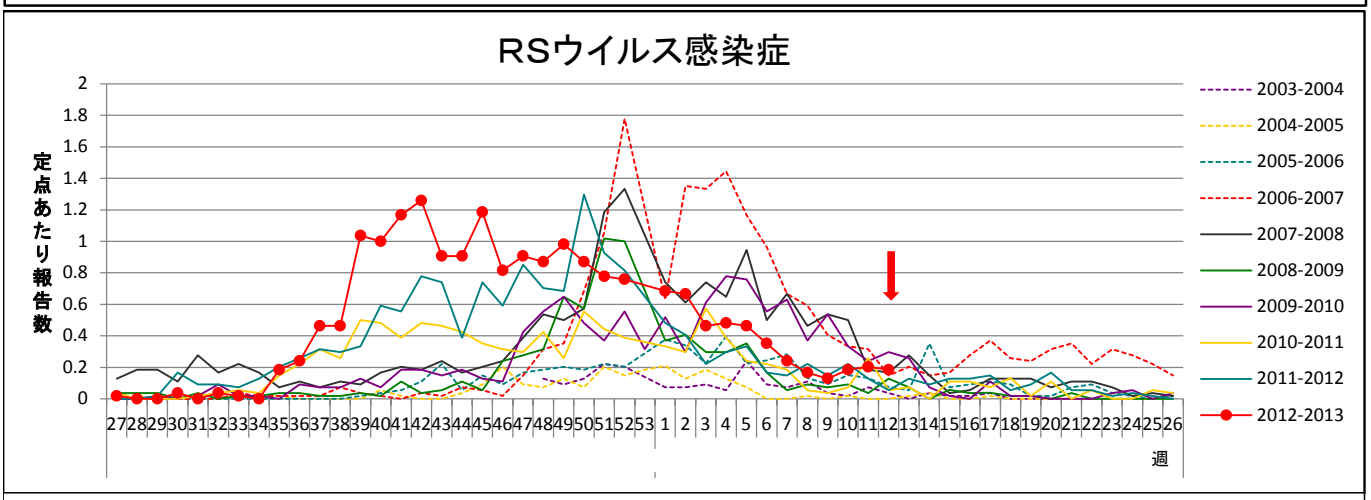
（－： 0 ）

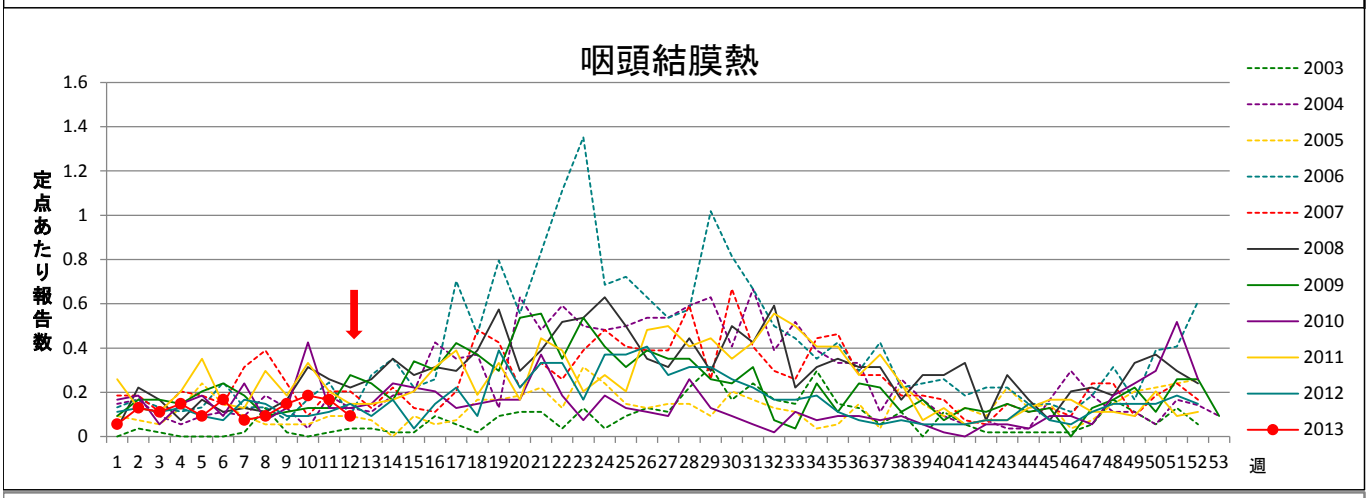
全数把握 感染症患者発生状況

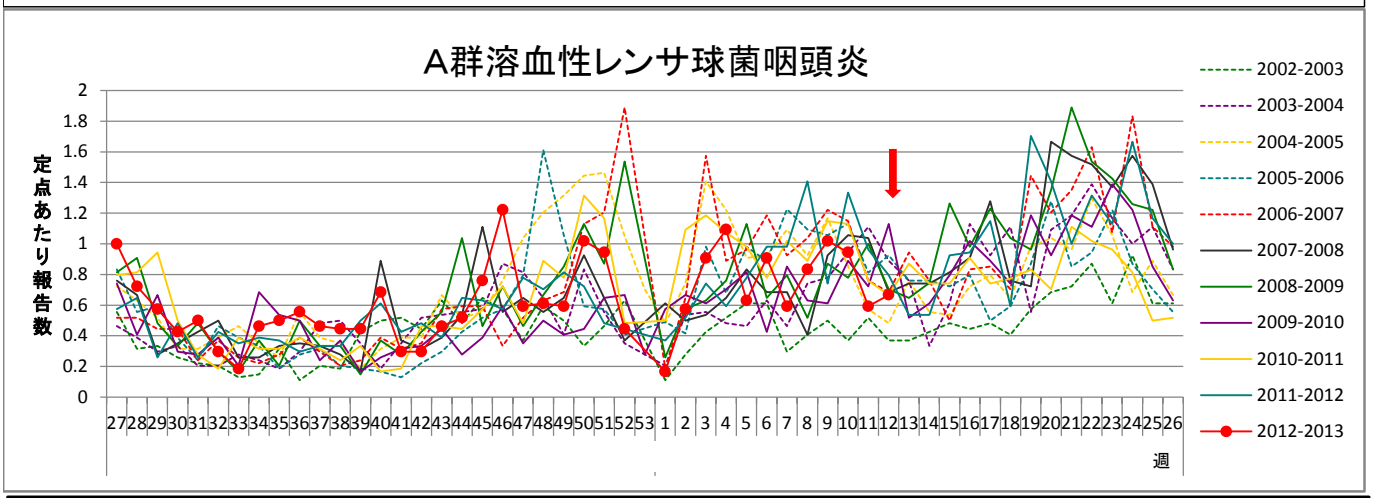
2013 年 12 週

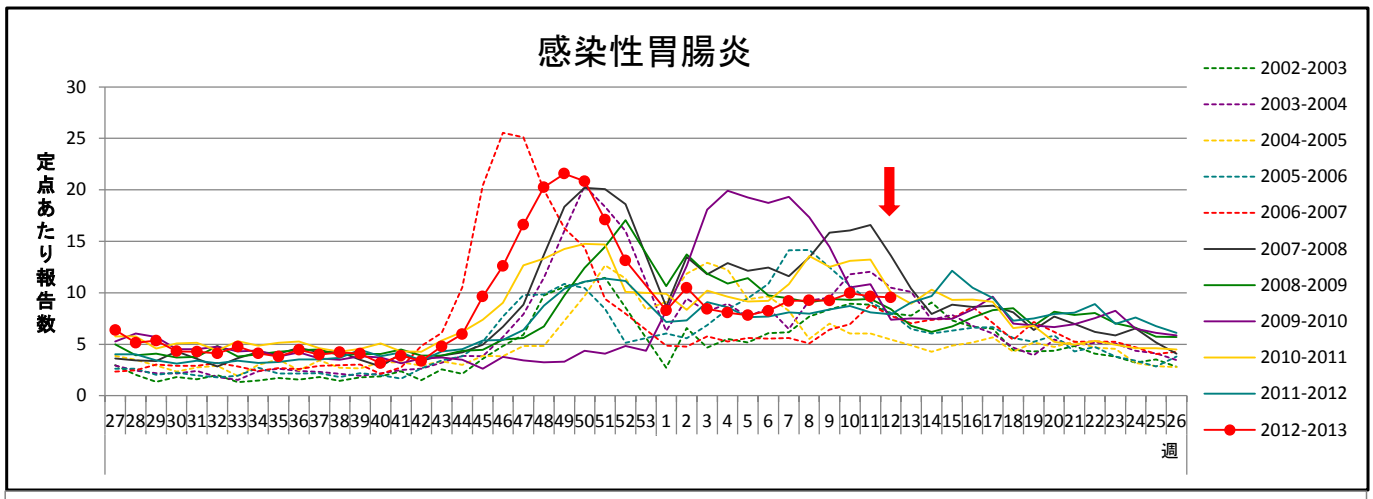
分類	疾病名	2013 今週	2013 累計	2012 昨年	疾病名	2013 今週	2013 累計	2012 昨年	疾病名	2013 今週	2013 累計	2012 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	1	56	478	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	–	–	–	腸管出血性大腸菌感染症	–	2	169
	腸チフス	–	–	1	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	–	–	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	1	4	2
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	–	–	腎症候性出血熱	–	–	–
	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–	炭疽	–	–	–
	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	–	2	デング熱	–	–	1
	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–	ニパウイルス感染症	–	–	–
	日本脳炎	–	–	–	日本紅斑熱	–	–	–	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–
	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–	ブルセラ症	–	–	–
	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–	発しんチフス	–	–	–
	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	–	野兎病	–	–	–
	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–	リフトバレー熱	–	–	–
	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	–	6	29	レプトスピラ症	–	–	–
	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	2	11	ウイルス性肝炎*3	–	–	7	急性脳炎*4	–	2	2
	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	–	1
	後天性免疫不全症候群	–	5	15	ジアルジア症	–	–	3	髄膜炎菌性髄膜炎	–	–	–
	先天性風しん症候群	–	–	–	梅毒	–	2	7	破傷風	–	–	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	–	–	–	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	–	2	風しん	1	11	6
	麻しん	–	–	6		–	–	–		–	–	–

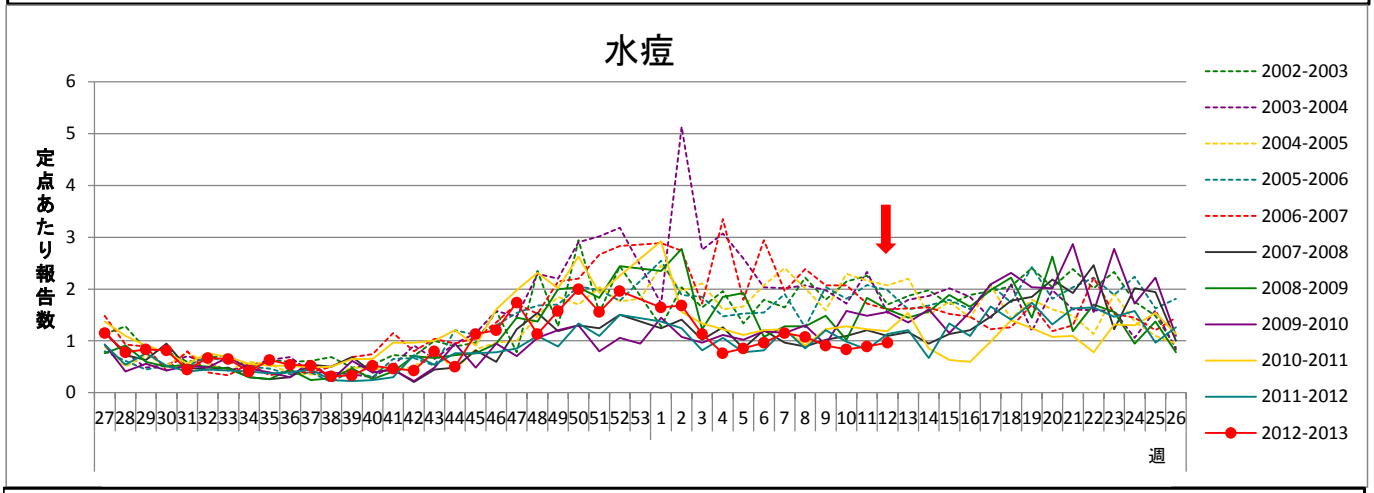

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

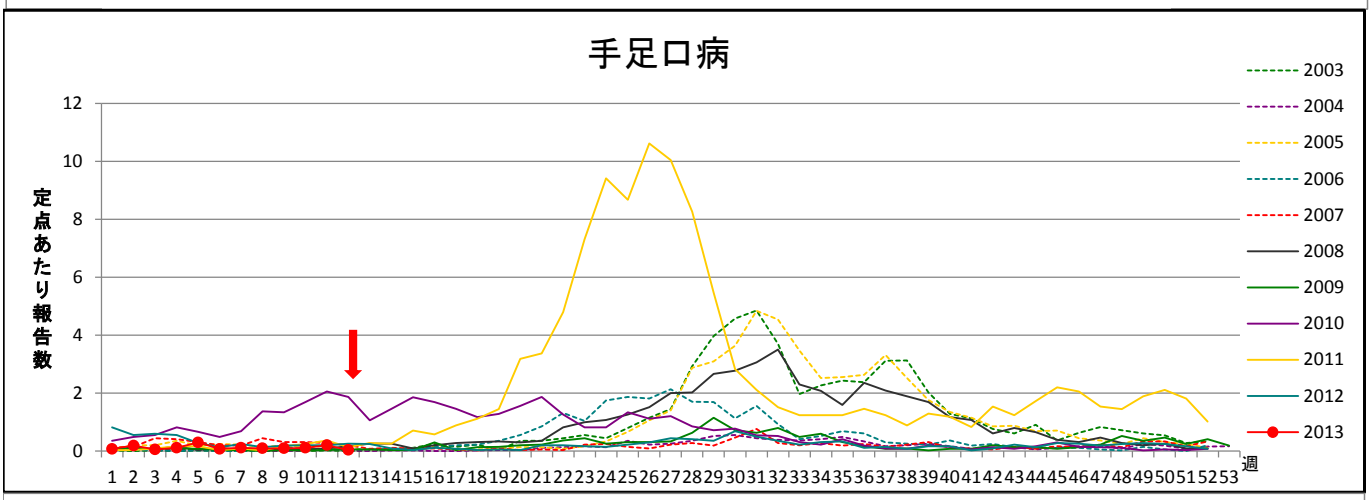

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

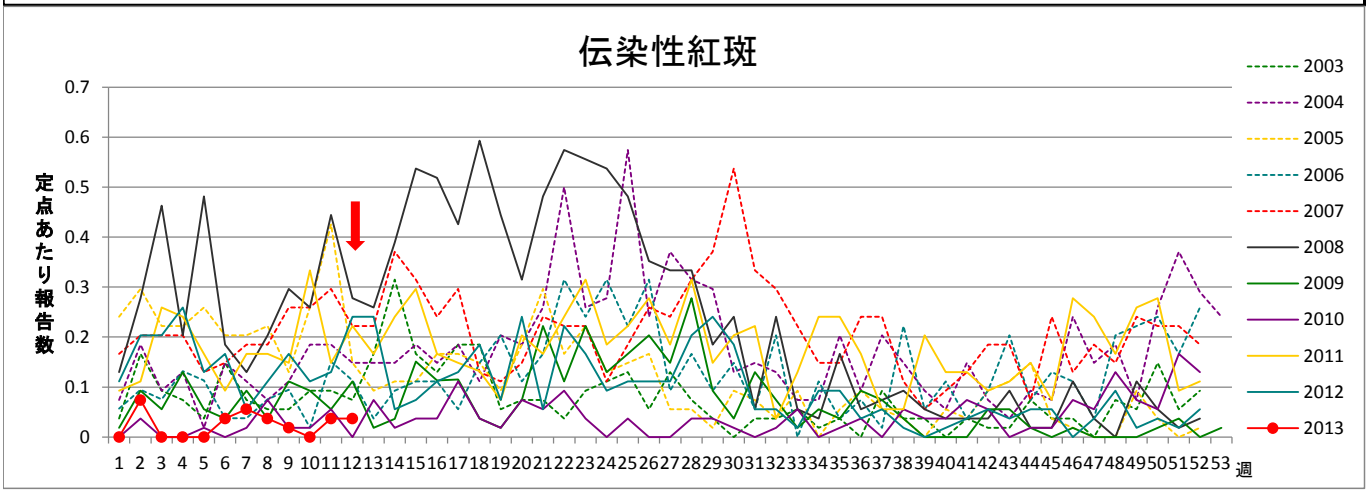

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

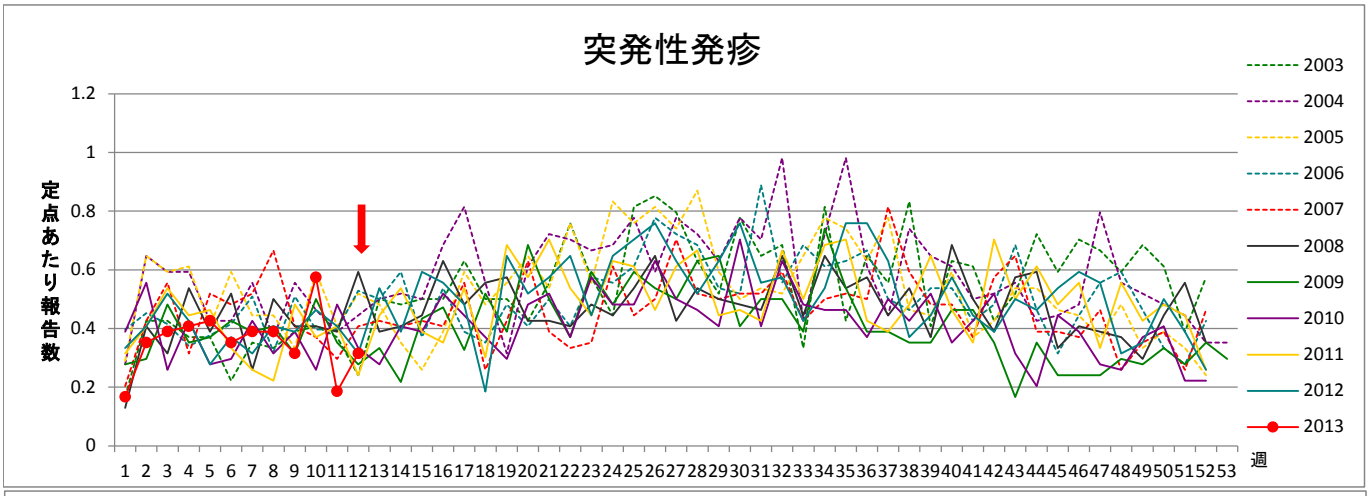

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

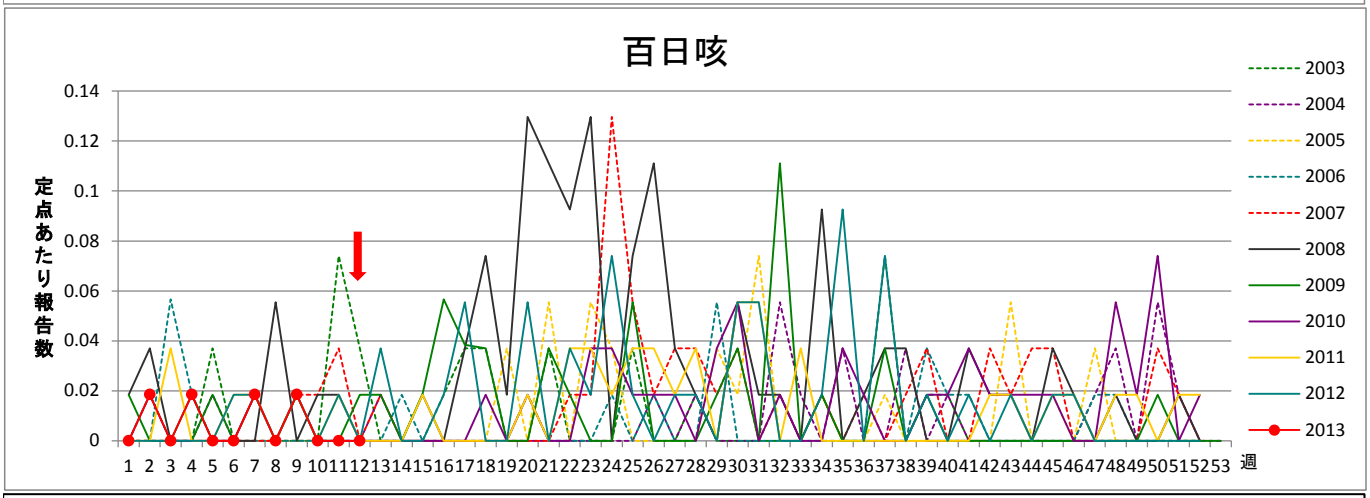

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

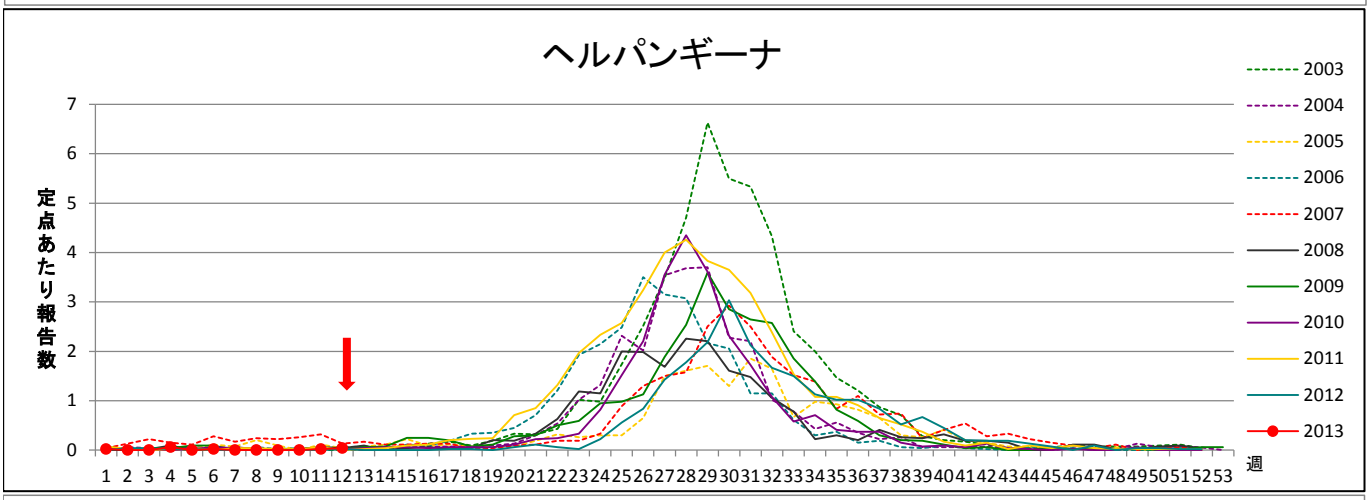

水痘
定点あたり報告数
週
2002-2003
2003-2004
2004-2005
2005-2006
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013

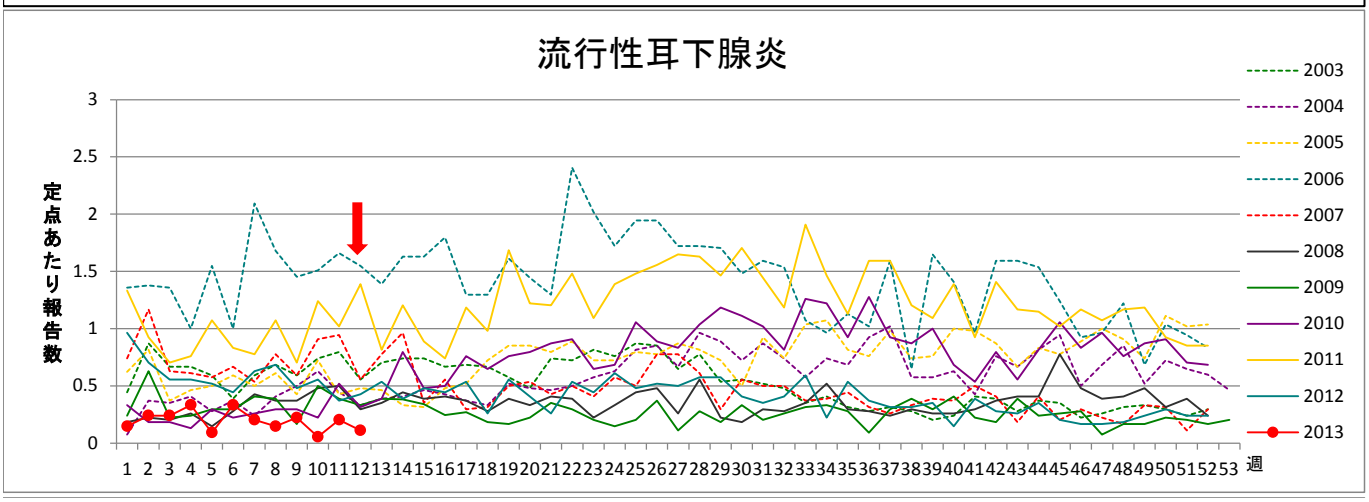

手足口病
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

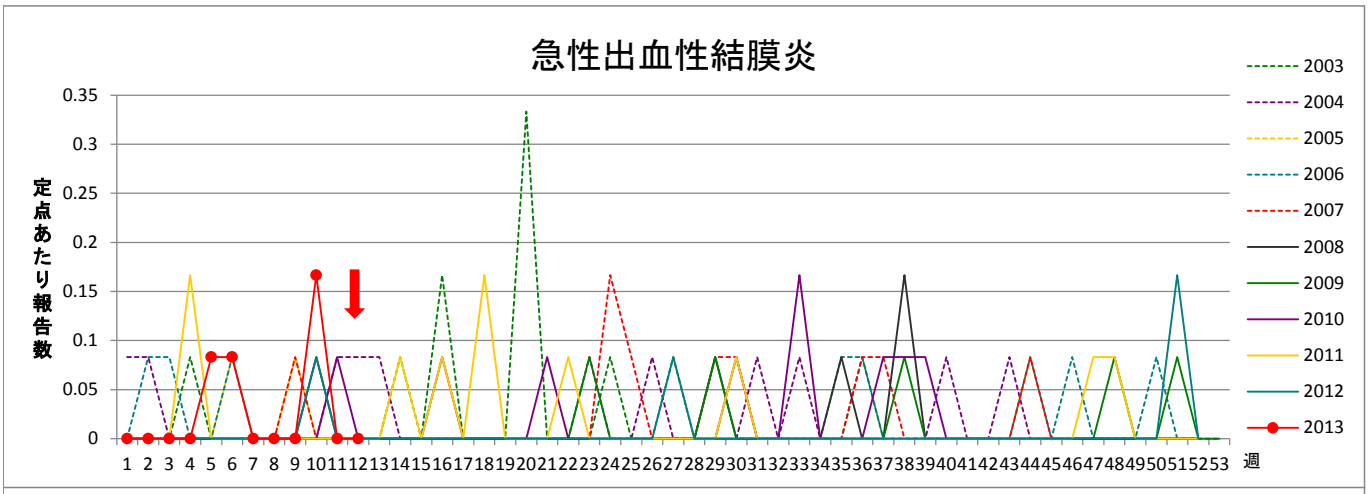

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

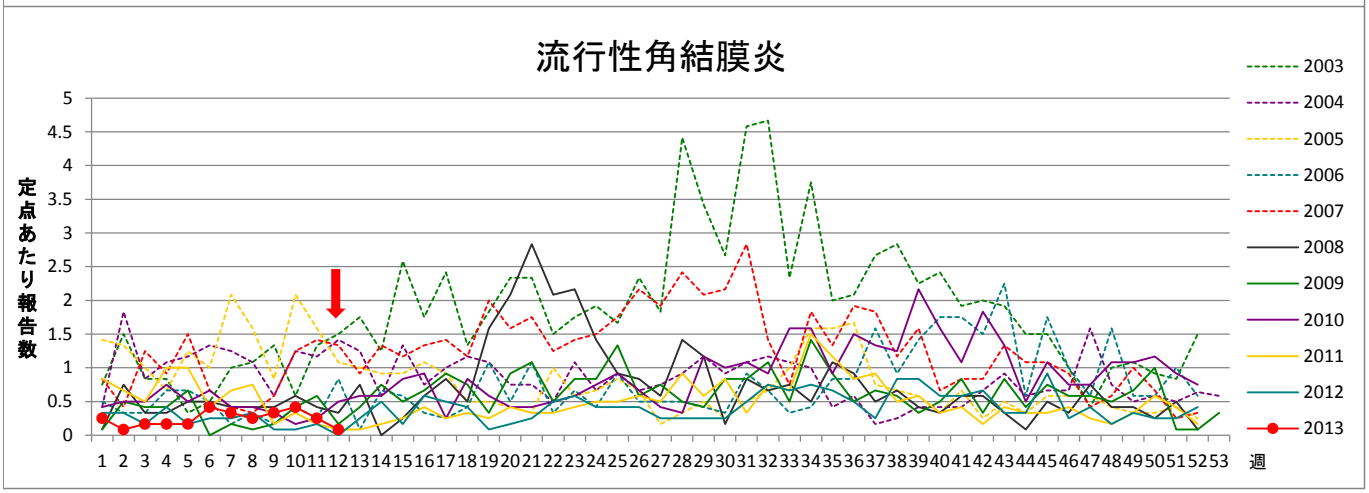

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

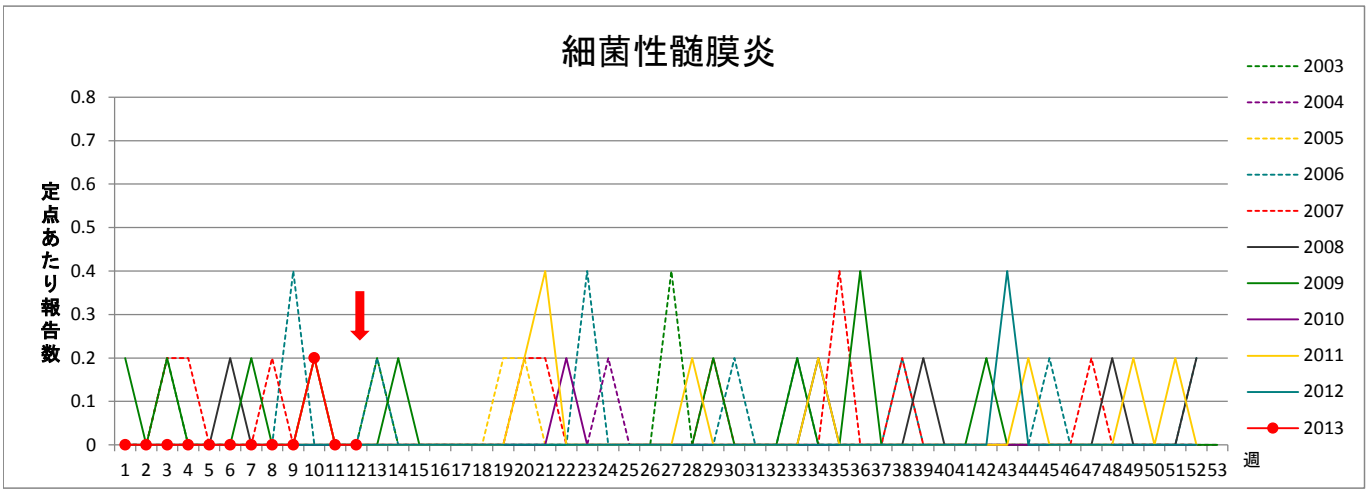

百日咳
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

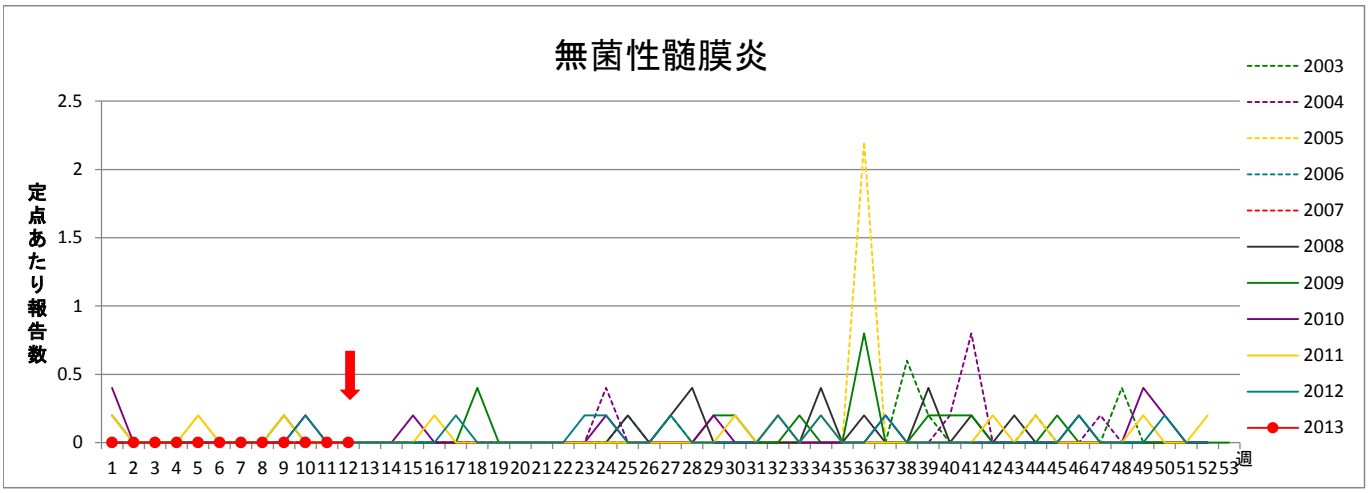

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

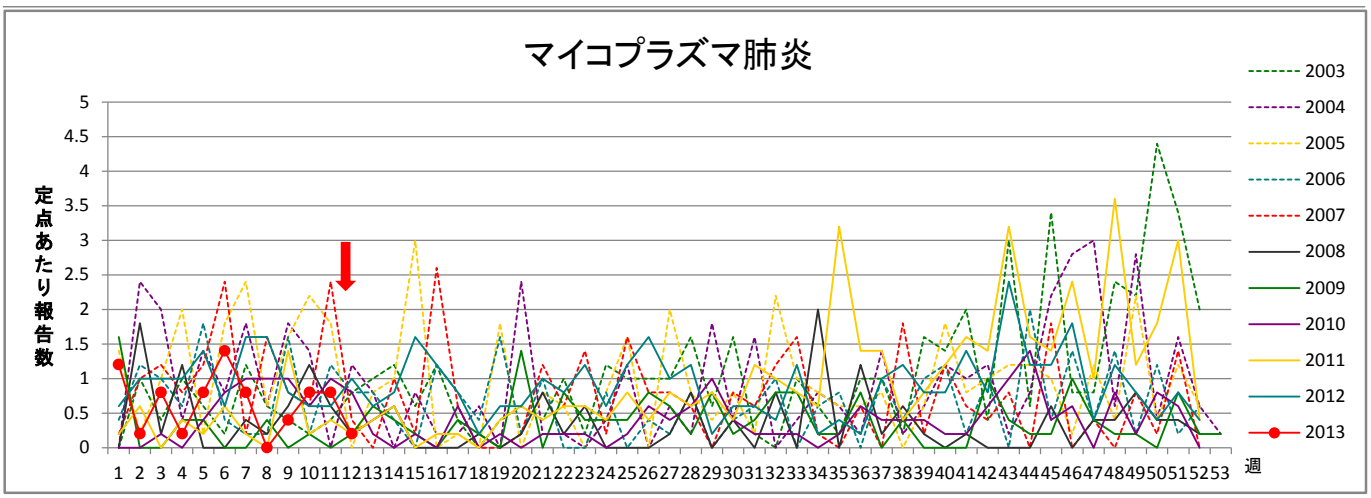

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013

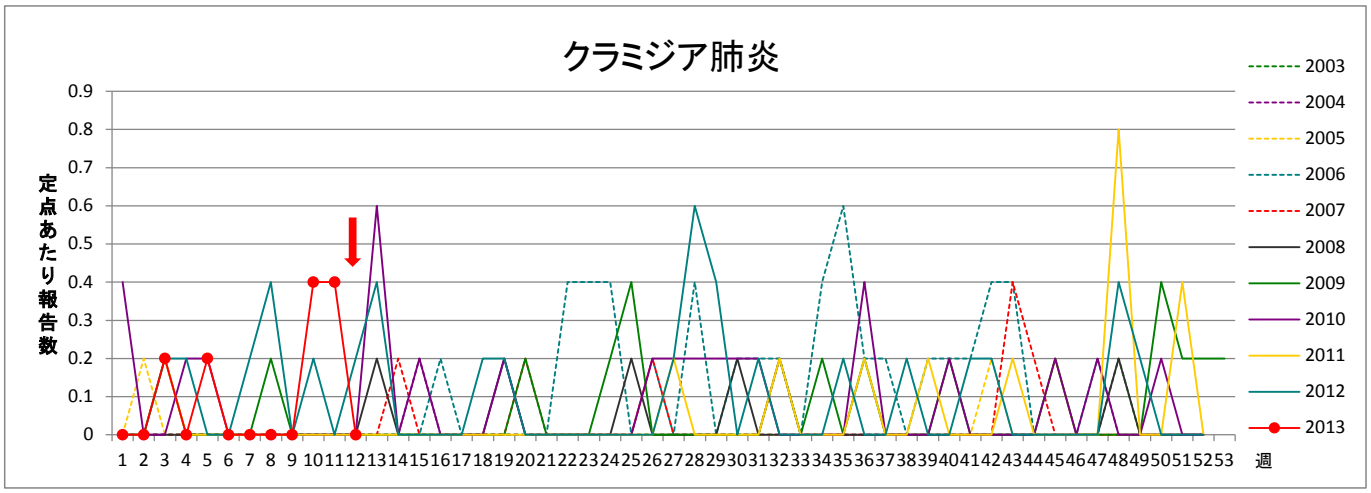

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013